

# IATSS NEWS

学会通信 国際交通安全学会

■ 令和元年度国際交通安全学会賞  
■ IATSS Research Vol.44,  
Issue 1 発行

## 令和元年度国際交通安全学会賞

第41回（令和元年度）国際交通安全学会賞の受賞者が決定しました。このたびは、業績部門2件、著作部門2件、論文部門1件が選ばれました。

なお、贈呈式につきましては、2020年4月に令和元年度研究調査報告会と合同での開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、延期となりました（開催時期は未定）。

### 業績部門

**業績題目：**バス事業の可視化がもたらす地域社会への貢献－利便性向上と観光需要創出へのあくなき挑戦－

**受賞者：**イーグルバス株式会社

**受賞理由：**イーグルバス株式会社は、独自のバス事業改善システムを導入し、緻密なデータ分析に基づく可視化による持続可能なバス事業を実践しています。徹底したマーケティング・リサーチの手法により、運行コストを削減するだけでなく、利便性が高まり、バス利用者が増加するという成果をもたらしています。また、ハブ&スポークと称する路線バス乗り継ぎ

システムの導入で、過疎地域での集約拠点形成と地域観光の需要創出を実現しました。ハブ&スポークは、バスセンター的役割を担うだけでなく、調剤薬局、クリニック、郵便局など、生活サービスの施設を併設することで、小さな町の拠点としての機能を有しています。観光センター、ショッピング施設、体験観光施設を併設し、観光客の誘致にも成功するなど、地域社会へ大きく貢献しているといえます。また、バス事業改善システムのノウハウを、ラオスのピエンチャン・バス公社に提供し、国際貢献に尽力しています。国内外に通用する事業を実践しているという点は高く評価されるものです。

### 業績部門

**業績題目：**県内すべての小学6年生を交通安全リーダーとする交通安全教育活動

**受賞者：**静岡県

**受賞理由：**静岡県では、「交通安全リーダー制」というユニークな交通安全教育活動を、県内すべての小学校で行っています。「より良い交通安全環境づくりとともに

に、小学校高学年生を交通安全リーダーに指名してリーダーワッペンを着用させ、リーダー自身が交通ルールの規範を示すとともに、下級生の交通マナーなどを指導させることを通じて、悲惨な子どもの交通事故を根絶しようとするもの」として始められました。

この取り組みは、小学6年生全員がリーダーとなり、リーダーとしての自覚を求められ、危険箇所マップの作成や地域関係者との意見交換に関わることによって、安全な地域づくりを警察や行政、他人に任せっぱなしにせず、地域社会への主体的な関わり方と関心を身につけることが期待されます。また、そうした教育を小学6年生から55歳までの県出身者がすでに受けていることで、地域自治を通じた交通安全の向上といった社会関係資本の充実に貢献してきたと考えられます。

通学路の安全が注目されている昨今、小学6年生を軸に地域の交通安全関係者のコミュニケーションを促進し、地域の交通安全環境を向上させてきた取り組みであり、他の都道府県にも広く普及す

ることが期待されます。

#### 著作部門

**著作名：**コーチングによる交通安全教育:メタ認知力の向上をめざして

**受賞者：**太田博雄

**受賞理由：**コーチングによる交通安全教育は、近年着目されている教育法であるコーチングの交通安全教育方法への活用に観点を置いています。自ら目標を掲げ、モチベーションを高めることを支援し導いていくコーチングを主題に、その概念・特徴ならびに具体的な教育手法を、理論編と実践編の二部構成で紹介しています。

理論編では、ティーチングとコーチングの基本的な考え方とその違いの説明から始まり、学習者とコーチとの対話などを通して進行するコーチング過程における共通認識を示すGROWモデルと、その目的設定に用いられるSMARTモデルが事例紹介されています。コーチングの基本技法として、リファレンス的な節も付記されており、コーチの心構えとして信頼関係構築の重要性、そして傾聴、質問、承認、フィードバックといった場面で用いる表現などがまとめられており、多様な場面での引用ができるかたちとなっています。

実践編では、初心者教育、企業での安全教育、プロドライバー教育への活用、高齢運転者の免許更新時講習といった対象者別に対するコーチングの特徴やポイントが紹介されています。コーチングを適用した教育プログラム開発、コーチングによる教育実践例についても、交通安全教育事例を取り上げているので、新しい交通安全教育プログラムを開発する際のイ

メージがつかみやすいのも特徴となっています。

ティーチングの限界を感じられる交通安全教育の対象者に対しても、さらなる学習効果を上げることが期待されるコーチングを体系的かつ実践的にまとめている点を評価しました。

#### 著作部門

**著作名：**電鉄は聖地をめざす都市と鉄道の日本近代史

**受賞者：**鈴木勇一郎

**受賞理由：**電鉄は、「主に日露戦争後から1920年代にかけて東京や大阪といった大都市で誕生し、現在の「大手私鉄」につながってくるような鉄道会社群のこと」と定義されています。電鉄が田園都市としての住宅地、ターミナル駅に併設されたデパート、沿線の遊園地等をつくりながら大都市郊外を開発してきたという通説に対して、複数の事例の丁寧な分析を通じて、反証と補正に取り組んでいます。著者が長年積み重ねてきた私鉄による郊外住宅地開発、都市形成、鉄道史に関する研究成果に基づき、阪急が電鉄を核とした郊外開発のモデルをつくり、それを東急や西武が応用して都市空間をつくったという通説に対して、電鉄の形成過程の初期段階において最も大きな推進力となったのは、「社寺参詣」であるとの指摘は興味深い主張です。

社寺と電鉄がどのように関わ合いながら、日本の都市を形成してきたのかという問題意識を序章で述べ、第一章から第五章までは、社寺と電鉄のユニークな関係が明らかにされています。終章では、東京で実施された1930年代の交通調整や、地下鉄と私鉄の相互直通運転の促進等を通じて、同様な

生活様式の人々が住む都市空間における電鉄のあり方が横並びとなったと指摘されています。筆者は、わが国の大都市郊外はもっと多様性があるべく、それを生み出す力は電鉄にあるのではないかと期待しているようでもあります。

取り上げている問題の社会的有用性、著作の新規性や視点の独創性、歴史学的な丹念な調査を重ねた専門性が高く評価されました。

#### 論文部門

**論文名：**Modeling cyclists' facility choice and its application in bike lane usage forecasting

**受賞者：**Nguyen Duc-Nghiem, Nguyen Hoang-Tung, Aya Kojima, Hisashi Kubota

**受賞理由：**自転車利用者が歩道、車道の自動車車線部分、車道のいちばん縁石寄り、車道に新たに用意された自転車専用車線のうちの、いずれの空間を選んで走行するのかを予測するモデルを開発しました。さいたま市内15カ所の道路において観測されたデータをもとに構築した二項ロジスティック回帰モデルです。分析手法として特徴的な点の一つが、近年注目されているベイジアンモデル平均を用いて、丁寧な検証に基づく影響力の少ない説明変数を除去し、より単純で扱いやすく、かつ予測性能の高いモデルを選択したことです。

最終的に得られたモデルでは、車道幅員、自転車のタイプ(競技用自転車あるいはマウンテンバイク)、路側帯の幅員、新たに設置された自転車専用車線の幅員は、車道上の走行の選択に影響を与える変数として、また歩道の有効幅員、バス停の存在、駐停車車両の

存在、性別、子供用座席の有無、グループでの自転車利用か否かは、歩道走行の選択に影響を与える変数として、それぞれモデルに含まれることを示しています。特にバス停の存在、歩道の有効幅員、自転車のタイプが大きな影響力を与えていることが明らかになっています。構築されたモデルは、自転車専用車線の導入の事前事後の様子が分かるデータでも検証され、極めて高い説明力を持ってい

ることが確認されています。これらにより、新たに導入する自転車専用車線が、どのように利用されるかを予測することが可能になりました。事業効果の事前推定、事業後の事後評価において有用な方法論を提示しています。

限られた道路空間内で、歩行者などに配慮して安全に走行できる自転車空間を用意し、利用してもらうことが重要な課題です。本論文は、この課題に対して、現地調

査を実施し、そのデータを用いて土木工学、都市工学分野の知見とともに、数理統計学の新しい優れた手法を組み込んで、実用面で応用可能なモデルを構築し、その有用性を、事前事後データを用いて検証しています。快適で安全なモビリティ社会の実現に資する学術的かつ実践的で、また、分野横断的なアプローチを用いて優れた成果を出しています。

## IATSS Research Vol. 44, Issue 1 発行

IATSS Research Vol. 44, Issue 1が発行されました。

Elsevier Ltd.のサイトより、無償で全掲載論文のダウンロードが可能です。

▶ <https://www.sciencedirect.com/journal/iatss-research/vol/44/issue/1>

### <General Topics>

#### **Ardilson Pembuain, Sigit Priyanto, Latif Budi Suparma**

The evaluation of tactile ground surface indicator condition and effectiveness on the sidewalk in Yogyakarta City, Indonesia

#### **Kanya K. Mukoko, Srinivas S. Pulugurtha**

Examining the influence of network, land use, and demographic characteristics to estimate the number of bicycle-vehicle crashes on urban roads

#### **Yao Yao, Oliver Carsten, Daryl Hibberd**

A close examination of speed limit credibility and compliance on UK roads

#### **Md Mahmudur Rahman, Shuchisnigdha Deb, Lesley Strawderman, Brian Smith, Reuben Burch**

Evaluation of transportation alternatives for aging population in the era of self-driving vehicles

#### **Deepak Behal, Sunil Kumar, Geetam Tiwari**

Determination and analysis of informal public transport stops

#### **Sneha Lakhotia, Sylvain Lassarre, K. Ramachandra Rao, Geetam Tiwari**

Pedestrian accessibility and safety around bus stops in Delhi

#### **Ali Akbari, Farshidreza Haghighi**

Traffic calming measures: An evaluation of four low-cost TCMs' effect on driving speed and lateral distance

#### **Krupanidhi Koilada, Ajinkya S. Mane, Srinivas S. Pulugurtha**

Odds of work zone crash occurrence and getting involved in advance warning, transition, and activity areas by injury severity